

ワクチンを受けた後も守ってほしいこと



新型コロナワクチンを受けることで、ウイルスが体にはいつてきても

新型コロナにかかりにくくなりますが、

絶対にウイルスが体にはいつてこなくなるというわけではありません。

ワクチンを受けた後も、これまでのように、以下の点にしっかりと注意しながら過ごすことが大切です。

3つの密(みつ)に注意

人と人との距離が近い(みっせつ)



手洗い・うがい



人がたくさんいる場所
(みっしゅう)



出入り口や窓が
閉まった場所
(みっぺい)



マスクを着ける



体調が悪いときは
外出・登校しない



新型コロナにかからない・うつさないためにできること

医薬品リスク管理計画
(RMP)

お子さまと保護者の方へ

新型コロナワクチン コミナティを

接種されるお子さまと保護者の方へ



お母さん、お父さん、おうちの人と一緒に

この説明書を読んで、ワクチンのことを知っておきましょう。

保護者の方へ：保護者の方もお子さまと一緒に5～11歳のお子さま向けページ(2～5ページおよび裏表紙)をご確認ください。

対象年齢	6か月～11歳
対象ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ・コミナティ筋注(5～11歳用) ・コミナティ筋注(6か月～4歳用)

12歳以上の方に関する情報は、

「コミナティを接種される方とご家族へ」をご確認ください。

※6か月～4歳のお子さまを対象とした情報は栗色を、

5～11歳のお子さまを対象とした情報はオレンジを基調として作成し、色調で対象年齢を判別できるようにしております。



BIONTECH

Pfizer

製造販売元：ファイザー株式会社

新型コロナワクチン コミナティは、ビオンテック独自のmRNA技術を基にビオンテックとファイザーにより共同開発された修飾ヌクレオチドmRNAワクチンです。

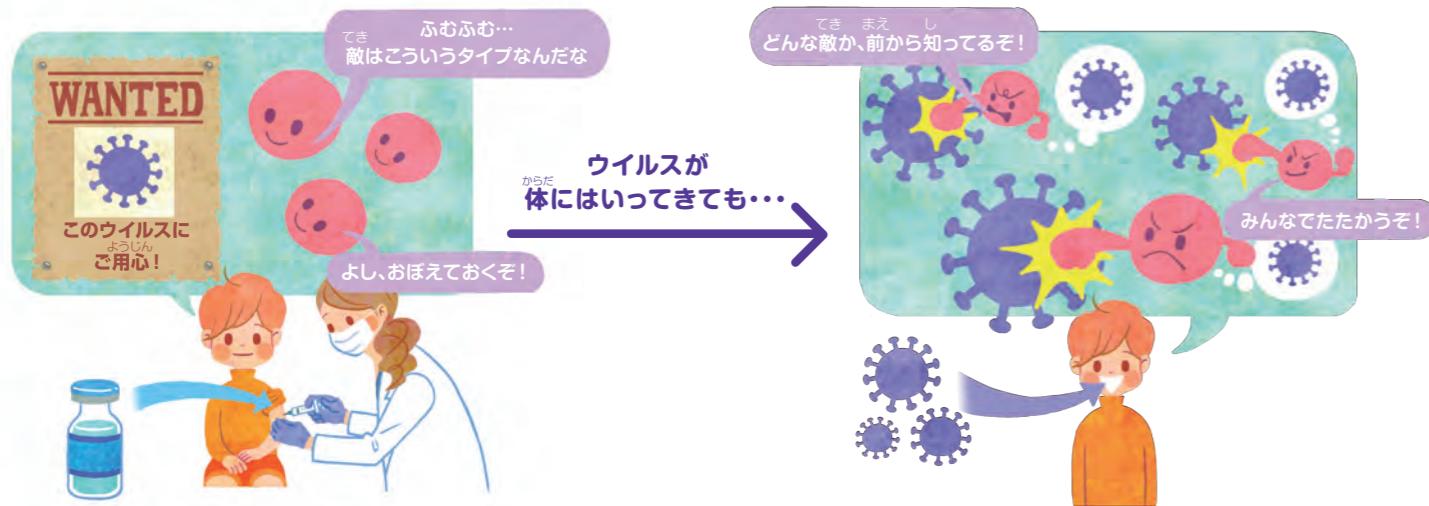
5歳以上のみなさんへ 新型コロナ ワクチンってどんなワクチン？

どうして新型コロナワクチンを受けるの？

新型コロナワクチンを受けることで、ウイルスが体にはいつても新型コロナにかかりにくくなります。もしかかって、新型コロナの症状が重くなるのが少なくなります。

新型コロナワクチンにはどんな効き目があるの？

もともと私たちの体には、ウイルスがいつてきたときに、どんな敵かをおぼえておいて、次にはいつてきたら、すぐにたたかうことができる仕組みがあります。新型コロナワクチンはこの仕組みを利用したものです。ワクチンにはウイルスの情報がいつています。その情報を使って、私たちの体は最初からウイルスがどんな敵かを知いつていて、すぐにたたかうことができる仕組みを準備することができます。この仕組みによって、ウイルスが体にはいつても新型コロナにかかりにくくなり、もしかかって、症状が重くなるのが少なくなります。十分な仕組みができるまでは、2回目のワクチンを受けてから7日間ぐらいかかります。



新型コロナワクチンは何回受けるの？

5歳以上のみなさんは、1回目のワクチンを受けた後、日にちを3週間あけて、2回目のワクチンを受けます。2回目のワクチンを受けてから少なくとも5か月あけて、3回目のワクチンを受けることができます。



新型コロナワクチンを受けるとき、どんなことに気をつければいいの？

受ける前に気をつけること

37.5℃以上の熱があるときは、ワクチンを受けることはできません。いつもと体の調子がちがうと思ったら、お母さん、お父さん、周りの大人の人に伝えましょう。



受けた後に守ってほしいこと

しばらくはすわって ゆっくり待つ



ワクチンを受けた後はすぐに帰らずに、イスにすわってしばらくはゆっくり待ちましょう。何か気になることがあれば、お母さん、お父さん、周りの大人の人に伝えましょう。

注射した部分は さわらない



さわったりこすったりしないようにしましょう。お風呂にはいつてもいいですが、ワクチンを注射した部分はゴシゴシ洗わないようにしましょう。

ゆっくり過ごす



ワクチンを注射した日はいつもどおりに過ごしても大丈夫ですが、はげしい運動はやめましょう。いつもと体の調子がちがうときは、お母さん、お父さん、周りの大人の人に相談しましょう。

ワクチンを受けた後、手足の先がピリピリする、手足に力がはいらないつたことがあれば、お母さん、お父さん、周りの大人の人にすぐに知らせることが大切です。

4ページと5ページにも気をつけてほしいことが書いつてあります。このページとあわせて読んでおきましょう。

5歳以上のみなさんへ ワクチンを受けた後に出るかもしれない症状

ワクチンを受けると時々、痛みやだるさや熱のような症状が出る場合があります。また、とてもめずらしいことですが、重い症状が出ることもあります。

受けた後に出るかもしれない重い症状

どのくらいの人にこのような症状が出るかはわかりませんが、重い症状が出る場合があります。重い症状は、ワクチンを受けた後すぐに出るものと、すぐには出ないものがあります。

● すぐに出るもの (アナフィラキシーといいます)

- ひふのかゆみ、赤み、赤いぶつぶつ など
- おなかの痛み、吐き気、気持ちが悪くなる など
- 目がみえにくい
- せき、のどのかゆみ、息がしにくい など
- ふらふらする、体に力がはまらない など

症状が出る場合、**受けた後30分以内が多い**といわれていて、**受けてすぐに出る**こともあります。注射した後はすぐには帰らずに、ワクチンを受けた病院などでしばらくゆっくりしましょう。

● すぐには出ないもの (心筋炎、心膜炎といいます)

- むねがズキズキする・ドキドキする、手足や顔がぶっくりする、体が重い・だるい、息がしにくい、ゼーゼーする、ハアハアする

受けた後に出るかもしれない症状

ワクチンを受けた人の20人に1人以上に、次のような症状が出るといわれています。

- ワクチンを注射した部分の痛み、赤み、はれ
- 頭が痛い
- げり(おなかがごろごろする)
- 体が痛い
- 体が重い・だるい、寒気がする(ゾクゾクする)、熱が出る

「ワクチンを注射した部分の痛み」が出る場合、ワクチンを受けた日に痛みが出て、その痛みは**2日間くらい**続くことが多いといわれています。そのほかの症状も、数日でよくなるといわれています。



このような症状が出たらすぐに周りの大人の人に知らせましょう。

ほかにも、体の調子に何か気になることがあったら、お母さん、お父さん、周りの大人の人にすぐに知らせることが大切です。

6ヵ月～4歳のお子さまの保護者の方へ

接種回数とスケジュール

6ヵ月～4歳のお子さまは初回免疫として新型コロナワクチンを**3回接種する必要**があります。1回目の接種後、3週間の間隔で2回目の接種を、その後少なくとも8週間経過した後、3回目の接種を受ける必要があります。1回目の接種から3週間、2回目の接種から8週間を超えた場合には、出来る限り速やかに次の接種を受けるようにしてください。追加免疫(4回目)の接種は受けられませんので、ご注意ください。



安全性(副反応)について

ワクチン接種後(特に、接種直後～数日間)はお子さまの体調に注意しましょう。下記のような症状や、いつもと違う体調の変化や異常があれば、接種を受けた医療機関等の施設の医師、看護師またはかかりつけ医へ相談してください。

起こるかもしれない重い症状 (頻度不明)

起こるかもしれない重い症状は、5～11歳と、6ヵ月～4歳では大きな違いはありません。

● ショック・アナフィラキシー

【症状の発現状況、時期、持続期間など】

ワクチン接種直後から、時には5分以内、通常30分以内に以下の症状があらわれた場合、ショック、アナフィラキシーの疑いがあります。

- 皮膚症状: 皮膚のかゆみ、じんま疹、紅斑、皮膚の発赤 など
- 消化器症状: 腹痛、吐き気 など
- 視覚症状: 視覚の異常
- 呼吸器症状: 声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ など
- ショック症状: 蒼白、意識混濁 など

本ワクチンの接種を受けた後しばらくの間は、接種を受けた医療機関等の施設でお待ちいただき、これらの症状がみられた場合には、**ただちに**、接種会場となる医療機関等の施設の医師、看護師等に伝えてください。

● 心筋炎、心膜炎

【症状の発現状況、時期、持続期間など】

ワクチン接種後に以下の症状があらわれた場合、心筋炎、心膜炎の疑いがあります。

- 症状: 胸の痛み、動悸、むくみ、息苦しい、息切れ、呼吸が荒い、呼吸が速い

これらの症状が認められた場合には、**速やかに**医師の診察を受けてください。

起こるかもしれない体の症状 (接種を受けた方の5%以上に起こったもの)

6ヵ月～4歳のお子さまは、ワクチンを受けた後、次のような症状が出るといわれています。5～11歳のお子さまとは症状の訴え方が異なりますので、ご注意ください。

- 注射した部位の痛み、腫れ、発赤・紅斑
- 眠気、頭痛、イライラ
- 食欲衰退、下痢、嘔吐
- 筋肉痛
- 疲労、発熱、悪寒

【症状の発現状況、時期、持続期間など】

注射した部位の痛みの多くは接種翌日にあらわれ、持続期間は約1日でした。

その他の症状の多くは接種翌日～5日ほどであらわれ、持続期間は約2日でした。

これらの症状は、通常、数日以内に治まります。なお、病気治療中の方で解熱消炎鎮痛剤などを使用される場合は、主治医・薬剤師に服用についてご相談ください。また、ひどい痛み・腫れ、高熱など重い症状と思われる場合は、医師の診察を受けてください。

【年齢共通】お子さまのワクチン接種に 関して保護者の方へお伝えしたいこと

新型コロナワクチンについて

新型コロナワクチン(コミナティ:以下、本ワクチン)は特例承認*されたものです。また、新型コロナウイルス感染症の予防や副反応について得られている情報は限られています。本ワクチンの接種を受ける前に、接種担当の医師等から本ワクチンの説明を受けてください。

*特例承認とは外国で本ワクチンが既に対象となる疾患の予防に用いられていることを条件に、国民の生命および健康に重大な影響を与えるおそれのある病気のまん延等を防止するための緊急の使用が必要な医薬品について、厚生労働大臣が、専門家の意見を聴いた上で通常の承認の要件を満たさない場合でも承認が可能となる制度です。

本ワクチンの接種事業について

- ✓ 本ワクチンの接種は国および地方自治体による新型コロナウイルスワクチン接種事業の一環として行われます。
- ✓ 本ワクチンの接種は公費対象となり、希望者は無料で接種可能です。
- ✓ 本ワクチンは6か月以上11歳以下の方が対象です。
- ✓ 本ワクチンの接種に際し、接種対象者またその保護者は、予診の際に本ワクチンの有効性・安全性、本ワクチン接種後の副反応および予防接種健康被害救済制度について説明を受けた後に、接種の実施について文書(予診票)による同意が必要となります。
- ✓ 本ワクチンの接種会場となる医療機関等の施設、必要となる持ち物、その他の詳しい情報については、お住まいの自治体からの案内をご確認ください。また、ご不明な点があれば、お住まいの各自治体へお問い合わせください。

本ワクチン接種にあたっての注意点

6か月~4歳 のお子さまと、**5~11歳** のお子さまでは、**接種回数やスケジュールなどが異なりますので、ご注意ください。**

(各年齢ごとの接種回数とスケジュールは2ページ、6ページに記載しておりますので、併せてご確認ください。)

① 年齢により**初回免疫の接種回数と、追加免疫の接種を受けられるかが異なります**ので、ご注意ください。

年齢	初回免疫の接種回数	追加免疫の接種
5~11歳	2回	接種可能です(3回目のみ)
6か月~4歳	3回	接種できません

② 年齢により**推奨される接種スケジュールも異なります**ので、ご注意ください。

初回免疫

年齢	初回免疫の接種スケジュール
5~11歳	・1回目の接種後、3週間の間隔で2回目の接種を受けてください
6か月~4歳	・1回目の接種後、3週間の間隔で2回目の接種を受けてください ・2回目の接種後、少なくとも8週間経過した後、3回目の接種を受けてください

(定められた接種間隔を超えた場合には、出来る限り速やかに次の接種を受けてください)

追加免疫

年齢	追加免疫の接種スケジュール
5~11歳	・2回目の接種から少なくとも5か月経過した後に、追加免疫としての3回目接種を受けることができます
6か月~4歳	・追加免疫の接種を受けられません

追加免疫の接種については、各自治体からの案内をご確認ください。

③ 1回目に本ワクチンを接種した場合は、2回目も本ワクチンの接種を受けてください。
6か月~4歳の方は3回目も、本ワクチンの接種を受けてください。

【年齢共通】お子さまのワクチン接種に 関して保護者の方へお伝えしたいこと

本ワクチンの接種が受けられないお子さま

下記にあてはまる方は本ワクチンを接種できません。
該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- ① 明らかに発熱している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ 本ワクチンの成分に対し重度の過敏症の既往歴のある方
- ④ 上記以外で、予防接種を受けることが不適當な状態にある方

本ワクチンの接種にあたって注意が必要となるお子さま

下記にあてはまる方は、本ワクチンの接種について注意が必要です。
該当すると思われる場合は、必ず接種前の診察時に医師へ伝えてください。

- ① 抗凝固療法を受けている方、血小板減少症または凝固障害のある方
- ② 過去に免疫不全の診断を受けた方、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ③ 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- ④ 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ⑤ 過去にけいれんを起こしたことがある方
- ⑥ 本ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方
- ⑦ 腎機能障害のある方
- ⑧ 肝機能障害のある方

6か月未満の方に対する有効性・安全性はまだわかっていません。

保護者の方の本ワクチン接種のご検討のお願い

- 本ワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症予防効果が臨床試験で確認されています。その他、重症化予防効果に関する臨床試験成績も報告されています。
- 日本小児科学会によると、新型コロナウイルス感染症に感染したお子さまを含む20歳未満の感染者の感染経路の約7割が家庭内感染であるといわれています（日本小児科学会：COVID-19 日本国内における小児症例）。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためにも、**感染症対策として、ご自身のワクチン接種をご検討**ください。
- 本ワクチン接種後も、基本的な感染予防対策*を継続いただき、お子さまへもこれまでと同じように注意しながら過ごすことをお伝えください。

*：具体例は本資料の裏表紙に記載していますので、ご確認ください。

保護者の同意について

お子さまの本ワクチン接種に際しては、**保護者の方の同意・立ち会いが必要です。予診票に必要事項を記載**のうえ、**ワクチン接種に対する同意書へのサイン**をお願いします。
なお、本ワクチンと**他の定期接種のワクチンとの接種間隔**などについては**医師へご相談**ください。
小児の予防接種記録は母子健康手帳で管理しているため、接種の際には**母子健康手帳の持参**をお願いします。

【年齢共通】お子さまのワクチン接種に 関して保護者の方へお伝えしたいこと

本ワクチン接種の前に気をつけること

下記の点へのご対応をお願いします。

- お子さまに基礎疾患があるなど本ワクチン接種についての疑問や不安があったら、ワクチン接種医やかかりつけ医に納得がいくまで質問する
- 体温測定やその他、お子さまの体調に変化がないかどうか確認する
- アレルギー疾患や他の医薬品でアレルギー反応の経験がある、食物アレルギーがある場合は、「何」に対して「どのような」症状が出たのかを伝える
- お子さまが普段から注射針や痛みに対して不安感が強いかどうかを伝える
- お子さまが今回のワクチン接種に不安を覚えていたり緊張しているかどうかを伝える

立ち会いに際してのお願い

適宜、お子さまへ声掛けを行い、お子さまが注射針をみないようにするなど、不安や緊張を和らげるような対応をお願いします。

本ワクチン接種の後に気をつけること

本ワクチン接種後(特に、接種直後～数日間)はお子さまの体調に変化がないか注意してください。4～7ページや、下記に示す症状や訴えがないか、お子さまの様子を観察をお願いします。

本ワクチン接種直後の注意点

- 血管迷走神経反射による失神があらわれる場合があります。以前に、採血やワクチン接種の時に気分が悪くなったことのあるお子さまは要注意です。冷や汗をかく、落ち着きがなくなる、ムカムカする、寒気がする、顔色が悪くなる、目の前が真っ白または真っ黒になる、聞こえづらくなる、意識が朦朧とする・なくなるなどの症状が出ていないか、お子さまの様子を観察をお願いします。症状が認められた場合には、慌てずに、頭などを打たないよう体を支え、**お子さまの体を横にして**安静にしてください。
- 「アナフィラキシー」は、**ワクチン接種直後から、時には5分以内、通常30分以内**にあらわれることがあります。何かあった場合にすぐに対応できるよう、医療機関等の施設内にお子さまと一緒にいて、お子さまの様子を観察をお願いします。
- 「アナフィラキシー」の可能性のある症状(6ページ参照)がみられる、またはお子さまからそのような症状の訴えがあった場合は、**速やかに医師や看護師等に伝えて診察を受けて**ください。

本ワクチン接種を受けた後の注意点

- 本ワクチン接種後に以下の症状があらわれた場合、心筋炎、心膜炎の疑いがあります。

心筋炎・心膜炎の症状

胸の痛み、動悸、むくみ、倦怠感、息苦しい、息切れ、呼吸が荒い、呼吸が速い

これらの症状がお子さまにみられたり、またはお子さまからこれらの症状の訴えがあった場合には、**速やかに医師の診察を受けて**ください。

- 本ワクチン接種後に以下の症状があらわれた場合、ギラン・バレー症候群の疑いがあります。

ギラン・バレー症候群の症状

歩行時につまずく、階段を昇れない、手足(特に足)に力が入らない、物がつかみにくい、手足がしびれる、手足の感覚が鈍くなる、顔の筋肉が麻痺する、食べ物が飲み込みにくい、呼吸が苦しいなど

これらの症状がお子さまにみられたり、またはお子さまからこれらの症状の訴えがあった場合には、**ただちに医師等にご相談**ください。

本ワクチン接種を受けた後の過ごし方

- 本ワクチン接種後も基本的な感染予防対策(マスク着用、密集、密接及び密閉の回避、手洗いや咳エチケット等)が必要です(感染を予防する効果は評価されていません)。
- 注射した部位は清潔に保つようにしましょう。
- 接種当日の入浴は問題ありませんが、注射した部位はこすらないようにしましょう。ただし、ワクチンを接種した当日を含め、ワクチン接種後に体調が悪い時は、入浴を控えることも検討してください。
- 接種当日の激しい運動は控えましょう。

よくある質問

Q1. ウイルスのタンパク質を作る基になる遺伝情報を体に投与すると、将来の身体への異変は心配ありませんか？

A1 メッセンジャーRNA (mRNA) は、数分から数日といった時間の経過とともに分解されていきます。また、mRNAは、人の遺伝情報(DNA)に組み込まれるものではありません。体の中で、DNAからmRNAが作られる仕組みがありますが、情報の流れは一方通行で、逆にmRNAからはDNAは作られません。こうしたことから、mRNAを注射することで、その情報が長期に残ったり、精子や卵子の遺伝情報に取り込まれることはないと考えられています。

Q2. 過去に他のワクチンや医薬品、食品、化粧品に対してアレルギー反応があったのですが、本ワクチンを接種しても問題ないですか？

A2 予診票にアレルギーの情報(何に対してどのような症状が出たのか)をできる限り記載の上、事前にかかりつけ医に相談するか、もしくは接種当日、医師にご相談ください。

Q3. ワクチンの効果はどのくらいありますか？

A3 5～11歳および12歳以上の方を対象に実施した本ワクチンの臨床試験では、本ワクチンを21日間隔で2回接種し、2回目の接種から7日目以降におけるワクチンの有効性(発症予防効果)は約91%でした。6ヵ月～4歳の小児に対する本ワクチンの3回目の接種から1ヵ月後の、新型コロナウイルスに対する中和抗体価は、16～25歳へのワクチン接種と同様でした。本ワクチンの臨床試験は継続中であり、今後さらに情報が得られる予定です。最新情報は、厚生労働省のQ&A(<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>)や日本小児科学会のホームページ(<https://www.jpeds.or.jp/>)をご確認ください。

Q4. ワクチンの副反応の心配はありますか？

A4 ワクチンの接種によって、副反応が起きることがあります。気になる症状、いつもと違う体調の変化が認められた場合には、速やかに医師等にご連絡ください。万が一、ワクチンの接種によって健康被害が生じた場合には、国による健康被害救済制度がございますので、お住まいの各自治体にご相談ください。

Q5. ワクチン接種時に必要なものはありますか？

A5 お子さまのワクチン接種では、原則、保護者の同伴が必要となります。また、お子さまの接種履歴は母子健康手帳で管理しているため、接種当日は可能な限り、母子健康手帳の持参をお願いします。特に小さいお子さまは不安から怖がって接種を拒んだり、泣いたりすることが予想されます。可能であれば気を紛らわすようなお気に入りのおもちゃや絵本などの持参をお願いします。

Q6. 新型コロナワクチンの接種を受ければ、感染予防対策はしなくていいですか？

A6 本ワクチンは新型コロナウイルス感染症の発症を予防するものです。本ワクチン接種後も基本的な感染予防対策(マスク着用、密集、密接及び密閉の回避、手洗いや咳エチケット等)が必要です(感染を予防する効果は評価されていません)。厚生労働省のマスク着用の考え方(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentaisaku_00001.html)では、就学前のお子さまについて、2歳未満のお子さまのマスク着用は推奨されていません。2歳以上の就学前のお子さまについても、マスクの着用は一律には求められておりません。マスクを着用する場合は、お子さまの体調に十分注意した上で着用してください。

Q7. ワクチン接種を受ける前や受けた後に気をつけることは？

接種を受ける前

原則としてワクチン接種は体調が良い時に受けましょう。いつもと様子や体調が違う、何となく調子が悪いという時、また、医薬品でアレルギー反応の経験のある方、食物アレルギーやアレルギー疾患のある方、予防接種そのものに対して緊張する方、注射針や痛みに対して不安がある方は必ず医師に相談しましょう。

接種を受けた後

まれにワクチン接種に対する緊張や痛みをきっかけに気を失う(失神する)ことがあります。ワクチン接種後は背もたれのある椅子にしばらく座るなどして休みましょう。特に緊張の強いお子さま、以前に採血やワクチン接種の際に気分が悪くなったことのあるお子さまは、事前に接種医にご相談ください。また、ワクチンの接種により**ショック**や**アナフィラキシー**などの重いアレルギー反応が起きることがあります。他の医薬品でアレルギー反応の経験のある方や、食物アレルギーやアレルギー疾患のある方は接種に際して慎重な観察が必要です。医師に相談の上、しばらくの間は接種を受けた医療機関等の施設内にいるようにしましょう。医療機関等の施設内にいることですぐに対応できます。なお、接種後に**心筋炎**や**心膜炎**があらわれることがあります。心筋炎、心膜炎が疑われる症状(胸の痛み、動悸、むくみ、息苦しい、息切れ、呼吸が荒い、呼吸が速い)が認められる場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

よくある質問

Q8. 新型コロナウイルスmRNAワクチン接種後に報告されているギラン・バレー症候群では、どのような症状が認められますか？また、症状を認めた場合は、どうすればいいですか？

A8 ギラン・バレー症候群では、歩行時につまずく、階段を昇れない、手足(特に足)に力が入らない、物がつかみにくい、手足がしびれる、手足の感覚が鈍くなる、顔の筋肉が麻痺する、食べ物が飲み込みにくい、呼吸が苦しいなどの症状があらわれます。ギラン・バレー症候群は、初期には軽症と考えられても急速に悪化することがあります。ギラン・バレー症候群が疑われる症状が認められた場合には、早い段階で医師等に相談するようにしてください。その際、本ワクチンを接種したことやいつ接種したのかなどを伝えるようにしてください。

Q9. ワクチン接種後に発熱しました。どのように対応したらいいのでしょうか？

A9 ワクチン接種後の発熱に対しては、日本小児科学会より、成人の場合と同様に発熱の程度に応じて解熱鎮痛薬を使用できることが示されています。ただし、小児には推奨されない解熱鎮痛薬もありますので注意してください。ご不安な場合は都道府県の相談窓口や、かかりつけ医にご相談ください。

Q10. 6ヵ月未満でも本ワクチンを接種できますか？

A10 本ワクチンの接種対象は6ヵ月以上の方です。なお、6ヵ月未満の方に対する有効性・安全性はまだわかっていません。

Q11. 1回目の接種時には11歳でしたが、2回目の接種前に12歳の誕生日がきました。5～11歳用と12歳以上用、どちらのワクチンを接種すればいいのでしょうか？

A11 5～11歳においては、1回目接種時の年齢に基づいて使用するワクチンが決定されます。1回目接種時に11歳であったお子さまは、2回目の接種までに12歳になった場合であっても、2回目も5～11歳用のワクチンを接種します。

新型コロナウイルス感染症に係る予防接種の実施に関する手引き(8.3版)より抜粋(<https://www.mhlw.go.jp/content/000971375.pdf>)

こちらの情報は更新される可能性があります。19ページに記載の二次元コードより最新の内容をご確認ください。

Q12. なぜ6ヵ月～4歳の初回免疫では、3回の接種が必要なのですか？

A12 6ヵ月～4歳の小児に対する本ワクチンの3回目の接種から1ヵ月後の新型コロナウイルスに対する中和抗体価は、16～25歳へのワクチン接種と同様という試験結果より、3回の接種が必要となります。

Q13. 本ワクチン接種の1回目と2回目の間隔が、3週間以上空いてしまった場合は、どのようにすればいいですか？

A13 できる限り速やかに2回目の接種を受けてください。

Q14. 6ヵ月～4歳で、本ワクチン接種の2回目と3回目の間隔が、8週間以上空いてしまった場合は、どのようにすればいいですか？

A14 できる限り速やかに3回目の接種を受けてください。

Q15. 6ヵ月～4歳で、2回目接種から8週間経過する前に3回目の接種を受けてもいいですか？

A15 6ヵ月～4歳のお子さまは、2回目の接種から少なくとも8週間経過した後に、3回目の接種を受けてください。

Q16. 本ワクチンの追加免疫の接種はどのような人が対象ですか？

A16 5～11歳のお子さまは、2回目の接種から少なくとも5ヵ月を経過した後に、追加免疫としての3回目接種を受けることができます。各自治体からの案内をご確認ください。なお、6ヵ月～4歳の方は追加免疫(4回目)の接種を受けられません。6ヵ月～4歳の方の追加免疫の接種については、必要性を含め今後さらなる情報が得られる予定です。

Q17. 1回目の接種で重篤な副反応が認められ、医師より2回目と同じワクチンを接種することが困難と言われました。2回目の接種を受けることはできないですか？

A17 国内では、6ヵ月～11歳の方を接種対象としているのは本ワクチンのみですので、2回目の接種を受けることができません。

よくある質問

Q18. 転居や新型コロナワクチンの流通減少等により1回目に接種を受けた新型コロナワクチンと同じワクチンを2回目に受けることが困難です。どのようにすればいいですか？

A18 国内では、6ヵ月～11歳の方を接種対象としているのは本ワクチンのみですので、2回目の接種を受けることができません。

Q19. 小児や乳幼児で、ワクチンを接種する部位は変わりますか？

A19 1歳未満のお子さまは、太もも外側に接種します。1～2歳のお子さまは、太もも外側もしくは肩(三角筋)に接種します。3歳以上のお子さまは、肩(三角筋)に接種します。ただし、明らかに筋肉量が少ない場合などは、年齢に関係なく太もも外側に接種することもあります。

Q20. 新型コロナワクチンと、他のワクチンの接種を同時に受けることはできますか？

A20 新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの同時接種は可能です。インフルエンザワクチン以外のワクチンとの同時接種はできません。互いに、片方のワクチン接種を受けてから2週間後に接種を受けることができます。特にお子さまは、定期接種で他のワクチン接種を受けることもありますのでご注意ください。

Q21. 新型コロナウイルス感染症や新型コロナワクチンの接種に関するお知らせを確認するには、どのようにすればいいですか？

A21 厚生労働省のホームページ(<https://www.mhlw.go.jp/>)に新型コロナウイルスやワクチンについての情報が公表されています。

Q22. 接種したワクチンの有効期限はどのように確認できますか？

A22 本ワクチンの有効期限は、「ファイザー新型コロナウイルスワクチンの接種を受ける方とご家族の方々のためのサイト」にて公開しています。下記の二次元コードよりアクセスし、接種券に記載されている「製造番号」(=ロットNo)ごとの有効期限をご参照ください。



6ヵ月～4歳用



5～11歳用

本ワクチンに関するさらなる情報について

ワクチン接種の考え方について

新型コロナウイルスは変異を繰り返しており、それに伴い重症化率やワクチンの予防効果などにも変化が生じています。小児における最新情報は、厚生労働省のQ&Aや日本小児科学会のホームページをご確認ください。

厚生労働省新型コロナウイルスQ&A:<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>
日本小児科学会:<https://www.jpeds.or.jp/>

情報提供サイトのご案内

本ワクチンに関する情報について、「ファイザー新型コロナウイルスワクチンの接種を受ける方とご家族の方々のためのサイト」にて公開しております。

同サイトでは、本ワクチンを接種されるお子さまの保護者の方へ向けた「新型コロナワクチン接種を検討されているお子さまの保護者の方へ」や、12歳以上の方に関する情報をまとめた「コミナティを接種される方とご家族へ」もご覧いただくことができます。



左の二次元コードもしくは
下記URLよりアクセスし、ご参照ください。

<https://www.pfizer-covid19-vaccinated.jp>

本資料に掲載されている内容は、変更される可能性があります。
最新の情報は下記二次元コードよりご確認ください。

